

花王（株）川崎工場 見学

1.花王の始まり

- ・花王の初製品「花王石鹼」が1890年に発売される。

花王の創業者である長瀬富朗は、安くて品筆の良い国産石鹼をつくり、みんなが石鹼を使えるようにとこの石鹼を作った。(会社名の由来は顔まで洗えるということから『花王』に)

2.花王という会社

- ・主に掃除や洗濯で使う洗剤を生産、販売している。最近ではグローバルカンパニーとして海外にも会社がある。
- ・1700種類の商品を作っている。(最近ではバラの香りがすごく人気で衣類、食器洗剤などさまざまな商品にバラの香りがつかわれている)
- ・近年ではより効率よく汚れを落とすために、粉末洗剤より液体洗剤が採用されている。

3.花王川崎工場とは…

- ・1962年10月にできた。最初に作った製品は粉末洗剤「ニュービーズ」や住居洗剤「マイペット」。そして、これらの製品は、時代に合わせて進化し、現在も川崎工場で生産されている。
- ・空気や水を汚さないようにするために常に環境に配慮した工場作りを考えている。また、空気や水だけではなく、工場内で使う電気も発電するときの熱を利用して原料を温めたり、お湯を作ったりしている。詰め替え用の製品も環境を配慮して普通の製品の1/5のプラスチックしか使ってない。
- ・工場内での箱詰め、梱包、出荷、ほとんどの作業が機械によって行われている。創業当初は700人程度いた従業員も今は270人程度。
- ・在庫管理もコンピュータが行っている。自動倉庫と呼ばれる倉庫に全ての製品がある。全ての製品が決まった場所に置かれるのではなく、バラバラに置かれている。(一箇所に同じ製品を置くとその製品を管理しているクレーンが壊れた時に製品が出せなくなってしまうから)

4.川崎工場の使命と役割

- ・家庭用品基幹工場として、東日本への確実な供給責任の遂行
- ・規模の利点を活かして低環境負荷・低コスト生産の追及
- ・徹底した労働生産性の追及と「ゆとり」の創出
- ・地域社会のよき隣人（共生と存在感）